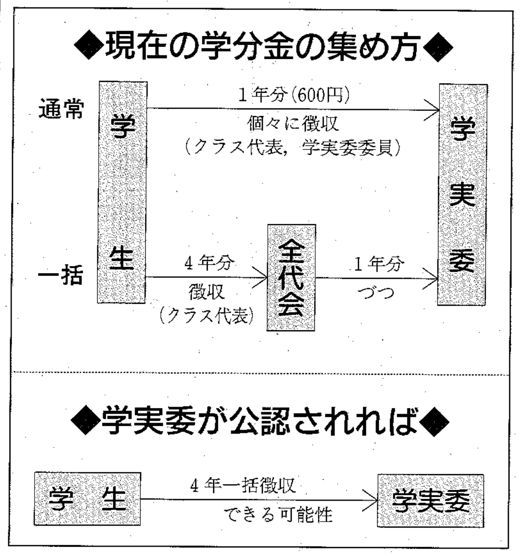
筑波學生新聞

どこへ行く学園祭

複雑な事情 徹底検証

…来不必要な困難に甘んじているように見えることだった。そのため、実行委員会に対しては辛口の提言になったかも知れない。けれどもこの特集は、本紙なりの学園祭に賭ける情熱であることを理解していただきたい。
学園祭は燃えているか。
（池亀、小幡、山本）



金銭不足で厳しい運営
学分金一括徴収で打開探る

学実委

「学生分担金」（以下、学分金）。学園祭を運営するために学園祭実行委員会（以下、学実委）に支払わなければならないとされるものである。しかし、なぜ学分金を支払わなければならないのか。企業から広告や協賛金で運営費を集めることは出来ないのか。学分金が抱える問題と、学実委が目指す学園祭について検証してみた。

〈学生分担金のしくみ〉

「学園祭を全学的なものにするため、全ての学生は、学園祭学生分担金を納入しなければならない」―学園祭に関する申し合わせの第三条より。学園祭の運営資金を学生から調達するシステム、これが学分金である。筑波大学の学生は全員、学実委への支払いが義務づけられている。

だが、学園祭に参加しないことを理由に学分金を払わない人も多い。また、払わなくても参加できるため、払った人が損をする、などの問題を抱えている。

＊＊＊＊＊

学分金を実際徴収するのは、全学学類・専門学群代表者会議（以下、全代会）である。各クラスごとにクラス代表が徴収するのだが、一年生以外はクラスが形骸化していること、などの理由から二年生以上の学分金の徴収は困難であった。

しかし、数年前から四年分の学分金を一括徴収する学類が出始めた。現在一括で徴収している学類は八学類。今年新たに四学類が採用した。

だが、この一括方式にも問題はある。学実委は毎年、解散、再結成される団体であり、毎年学園祭の開催を大学に申請し許可を受けねばならない。したがって次年度以降分の学分金を受け取ることはできない。そのため、全代会（各学類の座長団）に四年分の内、残りの三年分の保管を委託している。合法的に一括徴収をするために、学実委の解散、再結成のシステムを変えることはできないのか。

実際、学園祭が終了した次の日から仮発足というかたちで存在しており、準備金といった名目で予算を次年度に繰り越しているのだから、形式的なものであることは疑いようがない。

つまり学実委が恒久的に存在する形態をとることで、長期的な予算計画を立てることができ、全代会の手を煩わすことなく入学時に一括徴収ができる。

＊＊＊＊＊

もう一つの代案として、見返りだったパンフレットを販売することは出来ないのか。

学生が学分金を払わないのは、パンフレットを価値がない物とみなしているからである。パンフレットが無くても学園祭を満喫することはできる。第一、学園祭に参加したくない人にまで負担を強要しては、学園祭自由参加の意味がなくなってしまう。パンフレットを必要とする人だけが購入できるようにすれば、不満も挙がらないだろう。しかしパンフレットが売れるためには、それを購入しなければ学園祭に入場できないなど、価値がある物としなければならない。また、売れ行きというかたちで学生の反応が見られることで、学実委にも費用対、効果の意識が生まれる。

〈「手作りの学園祭」とは〉

多くの問題を抱えながらも学実委は学分金の徴収率を上げようと日々努力している。というのも学実委は「手作りの学園祭」というコンセプトを持っているからだ。つまり、学園祭を営利団体の広告・宣伝の場とすることを避け、学生分担金と教職員援助金だけで運営しよう、という考えだ。

この姿勢の背景には「国立大学（＝国）の一行事として位置づけられている学園祭を一般企業の宣伝の場とされることは当然認められない」とする大学の方針がある。企業の参入を許可すれば、大学から支給を受けている物資の援助を中止されかねない。したがって現在、一般企業などからも寄付金を貰っているが、将来的には無くす方針らしい。

また、つくばに一般企業が少ないこと、企業の参入による事務の増加、なども理由に挙げている。

しかし学外の多くの人々の協力の下で開催する学園祭にも、良い面があるはずである。例えば、協賛企業を募り地域社会とのコミュニケーションを保つことで、地域に根ざした学園祭を行うことはできないのだろうか。協賛企業と協調しながらでも、学生が主体なら「手作り」なのではなかろうか。

＊＊＊＊＊

いずれにせよ、参加する学生、一般客は「手作り」云々より、楽しい学園祭を求めているに違いない。

今までの慣例に従うだけでなく、新しい試みをしなければ、問題は解決されない。

未来予想図
どうなる!? 200X年雙峰祭

大学行事化

二〇〇X年、雙峰祭は学校行事として公認される。学分金は入学手続きの時に四年分払うシステムだから、当然徴収率百パーセントだ。おかげで予算規模はかつての数倍。最近はトップアーティストのコンサートもマンネリ気味なので、今年は外タレを呼ぶらしい。

学実委の半数は教官が任命され、学生との共同体制をとる。大学の圧力が強まると思いきや、むしろ柔軟な発想を見せるのは学生よりも若手教官なのであった…。

大学から独立

二〇〇X年、学実委と大学当局との関係が悪化、大学側不介入を掲げる学実委はついに大学と手を切った。設備を借りることができないため、会場は天久保公園、松見公園などいくつかの公園。経費は大量の企業広告、協賛金でまかなう。

利益追求が公認された模擬店では客引き競争が激化。噂によればイベントプロモーターや企業の広報関係者も暗躍しているとか。にぎやかさの見返りとしての無法地帯化に頭を痛めている。「学生の手作りの学園祭」からはかけ離れてしまったが、地域住民と共にまちづくりをする充実感と比べれば、狭いコミュニティーにこだわるつまらない目標であったと実感する今日この頃である。

現状維持

二〇〇X年、いまだに大学からの半独立という中途半端な立場をとる学実委は、面倒な手続きを続けていた。加えて学園祭のつまらなさが拍車をかけ、近年では学実委のなり手がいない。メンバーの減少に困り果てた学実委はついに本部企画の放棄を宣言。一般企画のバックアップに徹する「小さな学実委」を目指すと発表した。

特に中心的なイベントは本部後援企画として公募、選定によって多めの予算を与える形。一回目は某イベント団体が、都内のクラブから有名DJを呼んできて野外ディスコを行った。しかし定番企画以外は、学生からの反応は低調。依然として「模擬店祭」のままなのであった。

有名タレント なぜ来ない…
～カネがすべて!? 出演依頼～

去年は「極楽とんぼ」、一昨年は「底抜けAIRLINE」…筑波大学園祭「雙峰祭」にやってくる芸人はあまりにショボい。

学園祭には有名人イベントの話題性が必須条件。この常識に、雙峰祭は背を向けているかのようだ。大半の学生が期待する学園祭の姿ではない。

筑波大にはなぜ有名芸能人が来ないのか。ネックとなっている部分に、工夫の余地はないのだろうか。

＊＊＊＊＊

まずそもそも、学園祭実行委員会（以下、学実委）の方針の問題がある。芸能人企画は、とらえ方によっては学実委の掲げる目標「学生の手作りの学園祭」に反しかねない。しかし一方で「有名人を呼ぶことは学生に対する（分担金の）還元」とする意見もあり、学実委内でも統一見解がとれていないのが実状だ。結局、芸能人を呼ぶことへの積極性はその年の学実委の性質次第だと言える。

そういった思想的側面よりも決定的に有名芸能人を呼べない理由となっているのは、資金不足である。雙峰祭では芸能人企画はごく低予算しか割り当てられていない。例年五十万円程度である。芸能人は基本的にお笑い芸人、アイドル、ミュージシャンの順に出演料が高くなる。現状では有名アーティストのコンサートなど夢のまた夢である。

資金の確保方法としては、学実委の予算枠の中でやり繰りする以外に、チケットの販売が考えられる。けれどもこの方式を用いて一九九三年の学園祭に開催された「杏子」コンサートが九十七万円の赤字に終わって以来、学実委はリスクが大きいとしてチケット制を避けている。

こうした低予算を前提とした時の工夫の余地として、仲介業者を通さず、事務所もしくは本人との直接交渉が挙げられる。さらに芸能プロダクションに勤めている人や芸能人本人に「コネ」があれば、良心的な価格となる可能性が高い。筑波大卒業生の人脈をフル活用する意気込みがあれば、非現実的な話ではない。

最後に、コンサートのような大型企画を学実委以外の団体が開催する可能性について考えてみたい。現に講演会という形で有名人を呼ぶ企画団体は存在する。無料公開の講演会と異なるのは、莫大な必要経費をまかなうために、どうしてもチケット販売に頼らなければならない点だ。けれども模擬店のチケット販売を参考にするかぎり、問題はないと思われるのだが。学園祭実行委員長の石川さんに問い合せたところ、「前例がないので実委としての公式見解ではないが、すべて学生が仕切ってさえいれば、個人的には反対はしない。けれども何らかのクレームはあるだろう」との答え。

学園祭の華、芸能人企画。結局大事なのは、制約を乗り越えてでも「呼びたい!」という熱意とコンセプトだ。「お笑い芸人なら誰でもいい」といった安易な態度しか感じられない現在の雙峰祭に欠けているのは、現状を変えていこうとするアグレッシブな姿勢ではないか。

▶商品化されたリサイクルせっけん

リサイクルせっけんをより身近に
～推進団体の集い開かれる～

霞ヶ浦周辺には廃油から作れ、環境にも優しいリサイクル石けんを推進する市民団体が多く存在する。石けんを作るミニプラントを持っている団体だけでも十三ある。しかし、従来それらの組織には相互のつながりがなかった。そこで、組織間のコミュニケーションを取れるようにしようと、リサイクル石けん運動を勧めようという団体の集まりが七月十六日、つくば市桜庁舎で開催された。

推進団体の一つに、学生の代表として筑波学生教職員生活協同組合が参加していた。「筑波大生は、最低四年間はつくば市民であるのだから、地域の環境問題にももっと関心を持つべきではないだろうか」と生協の鈴木浩英さんは語る。生協ではリサイクル石けんの販売を行っているが売り上げはおもわしくない。しかし、これでも他大学の生協に比べれば多い方だという。「自宅生ならば家族と一緒なので、一人だけ石けんを使うまで意識を持つ人が少ないだろうが、一人暮らしをしていれば使う物を自分の意志で決められるからだろう」。

現在、リサイクル石けんは市民レベルに浸透していない。その存在すら知らない人がほとんどである。これには次の理由が挙げられる。市民がリサイクル石けんに関わる方法は、廃油回収に協力するか、できた製品を実際に購入して利用するかという形になる。しかし、各個人が廃油を集めるのはそれなりに手間暇がかかるものであるし、価格も合成洗剤に比べて安いわけではない。今のところ、農協や生協など一部でしか販売していないため、入手も困難である。その不便さの割に、リサイクル石けんの使用による水質の改善は極めて実感しにくい。これでは、あまり積極的に参加する気にはなれない。

他にも活動団体の宣伝不足や方法に問題があるとも考えられる。学生が一番身近に入手できる先は生協であるが、置いてあることを知らない人も多い。市民団体は市の広報紙や、広告を作るなどして市民にアピールしているが、効果は薄い。学生に関しては、なしのつぶてだという。団体側も、今は石けんの質の向上の方ばかり力を注ぎ宣伝を行っていないところもある。その結果、関係者は限られてしまい、事業として行っている㈱手賀沼石けんは赤字続きだという。

リサイクル石けんに対する不信感も根強い。「汚れが合成洗剤より落ちにくいのではないか」「臭い。においが落ちないだろう」など、先入観があるため消費者が買いたがらない、売場も広がらない、益々知られない、という悪循環にはまっている。

市民へのアピール不足 浸透の障害に

今回は、組織間の相互ネットワークを作ることにとどまった。しかし、今後の活動次第では、市民団体としてより大きくなり得る。例えばネットワークを生かして大規模なキャンペーンを行うことで、リサイクル石けんを市民により身近な存在にすることが可能である。あるいは、行政を動かしてプラント数を増やしたり、環境問題に更に重心を置かせることもできるであろう。今後のリサイクル石けん推進団体の動きに注目したい。（三上）

筑波塾 第一期終了
講義の"満足度"高い

つくばでベンチャー起業家育成を目指す「筑波塾」の第一期カリキュラムが終了した。豪華な講師を揃え、地域の注目を集めた筑波塾第一期の成果について、修了した塾生の感触を聞いた。

数名の塾生に話を聞いたところ「非常に面白かった。明確な目的をもって受講した人にとっては、有意義だったのでは」、「起業家としての精神的な面で刺激を受けた。休眠状態にある自分の会社を再開しようかと考えている」、「商売を始めるにあたって何が必要か網羅されていて、参考になった。現在会社に属しているが、社内事業を始め、できれば独立したいと思う」等、おおむね好評だった。各講義後に提出されたアンケートも、「不人気だった講義もあったが、全体として塾生の満足度は高い」（中山和彦塾長）結果となった。

第一期を振り返っての課題は、講師陣よりもむしろ受講者にある。「講師への活発な質問が少なかったことに代表されるように、塾生の将来計画性が足りなかったようだ」と中山塾長。

また、カリキュラム終了後に提出することになっている事業計画書（義務づけられてはいない）も「十集まるかどうか」と中山塾長は予想する。先に挙げた計画性の問題と、塾生に社会人が多かったためだ。「組織に属している社会人はやはり安定志向が強く、成功が保証されないベンチャー事業を起こしにくい」。むしろ、大学院生の方がビジネスへの興味は強かったという。

第二期は、十月中旬から始まる予定。講師はほとんど変更。「第一期を入門編とすると、二期は実際に会社をどう経営していくか等といった、より専門的で実用的な講義になるだろう」とのこと。また、第一期で十分に行えなかった宣伝活動も充実させていく。

ホームページ http://www.tsukubajuku.or.jp/

（丹羽）

自主休講

写真家ラリー・クラークが監督した映画「KIDS」は、ローティーンたちの赤裸々な性描写でR指定を受けたが、その主題は、にもかかわらず彼ら・彼女らがいかに痛々しいまでにイノセンスでありうるか、であった。しかし私はこれを見たとき、むしろセックスが成人の通過儀礼として役立たなくなった時代を実感したように記憶している▼事実、性交渉は社会的な意味づけをどんどん剥奪され、今や個人レベルの快楽だ。性行為ばかりか、就職も、結婚も、いざとなればいつでも降りることのできる電車のごとく、頼りない物になりつつある。成人の覚悟をつきつけられる機会は確実に失われていっている▼とは言え、覚悟しようとしまいと、そんなことにはおかまいなく、我々は既に社会の中に組み込まれてしまっている。いくら意識の上ではモラトリアムであろうとも、現実として大人と子どもとの間の線引きは存在する。それをことさらに強調してしまったのが、あの「酒鬼薔薇」事件だった▼新潮社の週刊誌「フライデー」が少年法違反を承知で容疑者の中学生の顔写真を掲載。少年法改正を興味本位的に掲げる一部のマスコミの論調の背後に見え隠れする感情は、子どもという特権へのやっかみに近い。裏返せば、過剰なまでに抱え込んだ子どもへの憧れかもしれない▼子どもへの憧れ。これが現代人を読み解くキーワードになりそうだ。例えば、小中学生の少女たちで結成されたSPEEDが人気を博したのも、我々の持つ子どもへの憧れの投影だったとは考えられないだろうか。あるいは完全に成熟を拒否してしまっているかのような篠原ともえのファッションが、追随者を生んでいる状況。子どもっぽいことは、現代にあっては確実に一つの価値なのだ▼けれど注意しなければならないのは、それが結局「子どもっぽさ」、スタイルでしかないことだ。現実レベルで、子どもという特別保護区への管理は今後むしろ徹底され、境界線は厳しく維持されるだろう。その一方で、イメージとしての子どもはモラトリアムな大人たちの心をくすぐり、容易に手に入る形で消費されていくに違いない▼一言で言ってしまえば、今、子どもは急速に「植民地化」されつつあるのだ。子どもにとって真の危機とは、大人たちのこの二重の侵略に他ならないのではないか。

日本名門酒会員
モンドセレクション
国際品評会金賞
人娘 ヒトリムスメ
(株)山中酒造店
代表取締役 山中直次郎
結城郡石下町新石下187
TEL0297-42-2004(代)
FAX0297-42-6977

編集・発行
筑波大学学生新聞会
代表 池亀 光洋
〒305 茨城県筑波学園郵便局私書箱29号
TEL 0298-52-4460
URL:www.first.tsukuba.ac.jp/~s950325
振替 00360-9-31450
1部100円

9月号 September

筑波学生新聞電子版
http//www.first.tsukuba.ac.jp/~s950325

筑波学園文庫
古書買入
学術書・専門書
筑波大教科書・参考書
SUKIYA デニーズ 珍来 東大通り 学園平塚線 筑波学園文庫 至大学会館
つくば市天久保3−21−3
TEL/FAX(0298)56-0322

車検整備・鈑金塗装
おまかせコース＝Aコース
格安コース＝Bコース
※車検基本料 15,000円
激安中古車あります
電話して下さい
有限会社 山一オート
つくば市大字要245
TEL 0298-64-1311
FAX 0298-64-7797
看板あり

一般・小児・矯正
医療法人 恵歯会
桜ケ丘歯科
診療時間（9:00〜18:00）
日，月，祭日，休診
吾妻3−17−6
東大通りぞい
TEL 0298-52-1518

運転免許
★低料金
★早い卒業
★安心
歓迎 筑波大生
公認 明野自動車学校
0296(52)2811
筑波大学生申込所
筑波学生教職員生協
0298(55)9331

格安航空券
パッケージツアー
ソウル ¥26,000〜
ロサンゼルス ¥51,000〜
ハワイ ¥55,800〜
アメリカ全米4都市周遊 ¥74,500〜
ヨーロッパ各都市往復 ¥89,900〜
(9,10月出発)その他各方面取り扱っております
〜26年の信頼と実績〜
IACEトラベル
つくば学園都市支店
0298(52)6669
日本旅行業協会正会員・国際航空運送協会承認
海外13支店国内8支店の安心のネットワーク
〒305 茨城県つくば市天久保2-16-1倉田ビル205
営業時：平日10:00〜18:30・土10:00〜17:00 日・祝休業

激安携帯電話
人気のドコモも持帰り特価
本紙お持ちの方，消費税さらにサービス
携帯・PHSプレゼント
随時、実施中！
どうせ申し込むなら安心の専門店へ
DMSデジタルメディアサービス
つくば市天久保3-21-3
☎0298-51-3231
http://www.asahi-net.or.jp/~ad5k-nsbr

過去の設置計画を裏付ける書類入手

本紙特別取材班は、第二回目の筑波大学構内地下道探索を行ったあと、第四学群を設置する計画があったことを裏付ける書類を入手した。そして、探索の結果とその書類から総合的に判断し、第四学群は消滅したとほぼ断定した。

第四学群とは、地下道内にかつて実在した、第四学群の標識が発端で噂となった幻の学群。本紙四月号では、まだ地下道内に標識が残存しているのではと第一回目の探索を行っていた。

（本紙特別取材班）

第四学群 調査結果 最終報告

「筑波新大学に関する基本計画案」

取材班は、筑波大学の前身である東京教育大学が、第四学群を設置する構想を持っていたことを裏付ける冊子「筑波新大学に関する基本計画案」を入手した。この冊子は昭和四十六年、東京教育大学の「将来計画委員会」が作成したもの。東京教育大学が筑波大学を創設するにあたって、関係方面と折衝する際の基礎となるものであった。筑波大学の研究体制や教育体制、サービス施設などについての案が、事細かに記されていた。

第四学群に関する注目すべき記述は、その冊子の「学群の編成」の項目の中にある「学群は次の4学群とする」というものである。それ以下の内容は下のコピーを参照してもらいたい。

現在の筑波大学には学群・専門学群が計六つある。しかし、その冊子が出た当時、「専門学群」は「プロフェッショナルスクール」として、学群とは別枠で考えられていた。当時、医学スクール、体育学スクール、芸術学スクールのほかに、教育指導者養成スクールの設置構想があったことは注目すべき点であろう。

当時、第四学群構想は、スクールと学群の中間的な性格を目指しており、その中に設置する予定の学類として、現在の「国際総合学類」「工学システム学類」の前身ともいうべき「国際関係学」「システム工学」の名を挙げている。

◀壁を這うように様々な管が走る地下道

「筑波大学その十年」

更に取材班は、昭和五十五年、筑波大学が「第二期五か年計画」と題して、第四の学群「国際関係学群」を新設する計画をもっていたという事実も確認した。

これは、筑波大学が開学十周年を記念して製作した「筑波大学その十年」という本の中に記されていた。

その本の第十章「未来への新たなる挑戦」によると、東京教育大学から引き継がれてきた筑波大学の将来計画委員会が、昭和五十五年度にその翌年度から始まる「第二期五か年計画」を策定した、とあった。委員会はその指針の一つとして、国際化の課題に応えることや社会の緊急課題の解決に貢献することなどを挙げていた。そしてその指針に沿って第二期への飛躍の旗手として挙げられた目玉が第四の学群「国際関係学群」の創設であるという内容の文章が記されていた。

国際関係学群並びに学類の設置については、その五か年計画に従い、昭和五十五年に学群創設、翌年と翌々年に学類創設の概算要求を行ってきた、とある。しかし、当時は政府が厳しい財政抑制政策を採っていたため、見送られた。その次の年（昭和五十八年）に、政府は学類（定員四十人）として、国際関係学のコースを設置することを認めた。これが現在の国際総合学類の前身「国際関係学類」である。実は、第四の学群「国際関係学群」構想が、この時点で崩壊していたのである。

◀『筑波大学その十年』より抜粋

国際関係学類の創設

第二期への飛躍への準備は、創設計画が一応完了する昭和五三年度より将来計画委員会において検討され、そこで創設計画に続く第二期五か年計画が策定されたわけである。

この第二期五か年計画のなかで、第二期への飛躍の旗手として期待されたのが、国際関係学群の創設である。国際関係学群の構想は東教大の開設準備委員会の基本計画のなかに第四学群として考えられていたという経緯もあって、早くからその実現が待望されていたものであった。一方昭和五〇年代に入って、日本の国際的地位の向上とともにますます国際人の養成が国家的急務となってき、国際関係学群の創設を求める声が社会の有識者の間で年ごとに高まってきた。

国際関係学群及び学類の設置については、第二期五か年計画に

気になる第四学群の真相

本紙第七一号（一九八八年十一月発行）の中には、「幻の第四学群発見！」と題した地下道探検記事があり、その中に第四学群の標識とその周辺の写真があった。写真には、作りかけの地下道が写されており、今後、第四学群を造るという状況を把握できるものだった。

本紙特別取材班は、四月に引き続き五月に第二回目の筑波大学地下道探索を行った。探索の目的はただ一つ。かつて実在した第四学群の標識を見つけ、その存在を実証することである。

第二回目の探索で取材班は、その写真と同じような場所を探した。その結果、工学システム学類棟付近の地下で、酷似した場所を発見することができた。行き止まりの壁だった九年前の写真と比べて、現在その場所は奥深くまで掘削されていた。その奥は国際総合学類棟と工学システム学類棟の地下だった。

ここで「筑波新大学に関する基本計画案」の中に、第四学群として国際関係学コースとシステム工学コースを開設する構想があったことを思い出してほしい。

筑波大学は、キャンパス建設の際、この構想を頭に入れた上で、第四学群用の場所を確保していた。それが、あの写真に写っていた場所であり、今は掘削されて国際総合学類棟と工学システム学類棟になった場所なのである。

「筑波大学その十年」の中にもあったように、国際関係学群構想は概算要求の時点で見事に崩れ去った。そのかわり学類となった国際関係学類は第三学群に組み込まれ、第四学群建設予定地に建てられた・・・こうして、第四学群建設予定地は、第三学群とならざるを得なかったのである。

第四学群の標識の周りには本当に第四学群があるのでは？取材班はいつもそんな期待でいっぱいだった。だが、地下道内で不必要になった第四学群の標識は取り除かれてしまった・・・以上の事実から我々は、第四学群はもう、姿を現すことはないとみる。

インターネット上で
仮想現実化へ加速

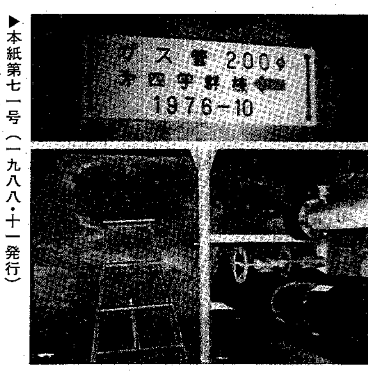
第四学群は現在、学生らにより、インターネット上で仮想現実化が図られている。八月現在で、第四学群関連のURLが計七件（本紙調べ。別表参照）。これらのページは互いにリンクされており、ある種のネットワークが形成されている。

本紙ではそれらのページを作成している方々に電子メールを送付してアンケート取材を試み、それらの実態に迫った。ページを制作したきっかけ、ページに対しての反響、第四学群に対する思いを伺った結果、六名の方から返事をいただいた。

第四学群は不満のはけ口

本田真望さん（情報二年）はホームページ「第四学群ホームページ」をつくった。先輩には呆れられてしまったものの、友人たちの間ではウケたという。

本田さんは、第四学群について次のような考えを持っている。「我々の想像している第四学群には、筑波大学の教育に対する不満が含まれているような気がする。政治・宗教的活動の禁止、許可の必要な集会、半ば意味を持たないようなカリキュラムは、我々の知的探求心や積極性に歯止めをかけているように思う」。



▶本紙第七一号（一九八八・十一発行）に掲載された第四学群の写真

入学希望者が現れた

赤沢正彦さん（自然二年）は、ホームページ「第四学群ホームページ」上で、第四学群の開設授業科目一覧や学生選抜入試要項などを作成している。赤沢さんにホームページの反響をうかがったところ、「僕のホームページを見た人から、学生を一般募集してみたら？という電子メールが届いて、実際募集してみたところ、数名ほど入学希望者が現れた」という。

表現自由な環境が醍醐味

第四学群のホームページは、大部分が筑波大学の端末を利用してつくられたものだ。柳谷正章さん（工学研究科）のページ「筑波大学第四学群のホームページ」もその一つ。

「大学で自由に作らせてもらっていることには感謝している。大学における個人のホームページの作成では、著作権の問題などに対してよりシビアに自己の責任を考えなくてはならず、かといって、個人の責任さえとれれば何を作ってもよいというわけではない。洒落とわかる範囲内で、第四学群に限らずどんどん面白いページができればいいと思う」と柳谷さんは我々のアンケートに対して答えてくれた。

《総括》

第四学群関連のホームページは、日頃の不満を盾にした要素が強いもの、また理想を描きつつパロディー化したものが多いようだ。それ故か、アクセス数は、他の学生のページよりも多めで、人気を集めている。内容に関しては未だに規制の緩いWWW（ワールド・ワイド・ウェッブ）。第四学群関連ホームページはそんな情勢の中での自由な表現活動として、よい一例と言えるのではないだろうか。

第四学群は消滅してしまった。しかし私たちの心の中には生き続けている。インターネットなど高度な通信網が発達かつ大衆化してきたことによって、仮想現実化を果たした第四学群。行く末は、いったいどうなるのであろうか。しばらくの間は、ホームページの動向を注目していきたいところだ。（柿沼）

「第四学群ホームページ」赤沢@自然２年さん制作
http://www.ipe.tsukuba.ac.jp/~s960272/fourth
「筑波大学第四学群のホームページ」柳谷@機械研さん制作
http://www.pslab.esys.tsukuba.ac.jp/~yanagiya/fourth.html
「筑波研究学園都市のなぞ」磯部@心理研さん制作
http://www.human.tsukuba.ac.jp/~s-isobe/tsukuba/main.html
「Fourth Cluster」宮下@情報２年さん制作
http://www.jks.is.tsukuba.ac.jp/~miya/fourth.html
「第４学群」寺元@社工研さん制作
http://www.ecopolis.sk.tsukuba.ac.jp/~yellow/jokes/4th j.html
「筑波大学第四学群」本田@情報２年さん制作
http://www.jks.is.tsukuba.ac.jp/~iks/4th.html
「第四学群調査報告」本紙特別取材班制作
http://www.first.tsukuba.ac.jp/~s950325/4gaku.html

▲第四学群ホームページ一覧

ひとのめ30　～砂時計～

http://www.bres.tsukuba.ac.jp/~hitonome/

香港の街角から

HONG KONG 4.AUG.97 Vol.2

『植民地の残滓を吹き飛ばす風』

野田健次

返還からちょうど一ヶ月経った八月一～二日、香港は台風「ビクター」の直撃を受けた。香港天文台（気象台）は二日午後、十四年ぶりに台風警報九号（最大瞬間風速五一・四メートル以上）を発令し、人々に厳重な警戒を呼びかけた。

香港の台風警報は五ランクあり、九号は最強の十号（同六一・七メートル以上）に次ぐ。その下の八号（同五一・四メートル未満）でさえ、職場や学校は即座に全員を帰宅させる義務があり、ほとんどの交通機関が止まる「大事件」。八号は例年四～六回程度発令され、土砂崩れや洪水、行方不明者を出す。例えば九三年九月に香港近海を通った八号レベルの台風「ドット」は降雨量三〇〇ミリと、月間平均雨量の二倍を降らせ、四百ヘクタールの農地を水没させた。この時、筆者はうっかり居室の風上側の窓を開けたとたん、風圧で反対側の窓のかんぬきが壊れて観音開きになり、雨混じりの暴風が紙類を巻き上げながら横に通り抜けてゆくという体験をした。

さて今回、「ビクター」は二日午後八時ごろ香港に上陸し、十一時に中国へ去った。筆者宅の被害は換気扇損傷一。明けて三日、近所の街路樹はほとんどが折れたり、ひっくり返ったり。道路には木の葉や枝、看板の破片、折れた傘などが一面に散乱した。最大瞬間風速四六・六メートル、総雨量一五〇ミリと強力だったが、人的被害は死者一人、重軽傷四十六人と奇跡的に少なかった。十四年前の九号の「アイリーン」は死者・行方不明二十二人、重軽傷三百三十人。この幸運に新聞はうれしそうに「台風は植民地の残滓を吹き飛ばし、祖国回帰を祝福した」（「東方日報」八月三日付）と書き立てた。どうしてそうなるのか・・・少し説明が必要だろう。

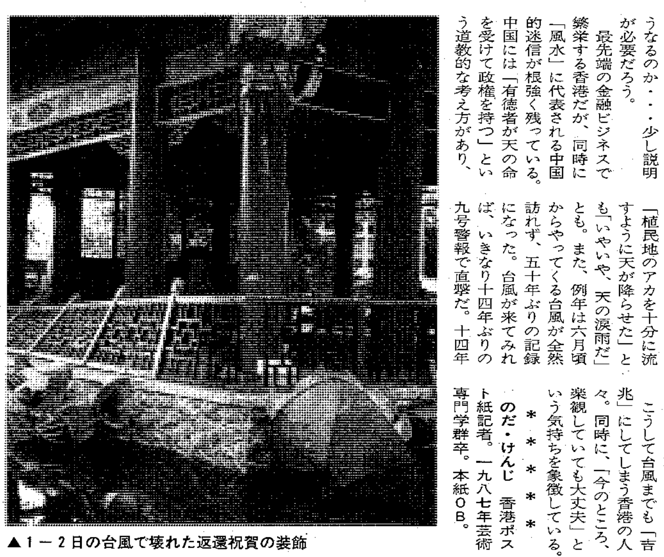
最先端の金融ビジネスで繁栄する香港だが、同時に「風水」に代表される中国的迷信が根強く残っている。中国には「有徳者が天の命を受けて政権を持つ」という道教的な考え方があり、天災は天が政治を怒っている象徴という。文化大革命末期で、毛沢東死去の直前の七六年七月、死者二十四万人を出した唐山大地震が発生した際も「それみたことか」と人々はささやきあった。

そして百五十年の植民地統治が終わったこの夏、香港は日本同様に異常気象に見舞われた。返還当日の六月三十日から降り始めた雨は、七月に入っても延々降り続いて、百十一年ぶりの記録的な大雨に。人々は「植民地のアカを十分に流すように天が降らせた」とも「いやいや、天の涙雨だ」とも。また、例年は六月頃からやってくる台風が全然訪れず、五十年ぶりの記録になった。台風が来てみれば、いきなり十四年ぶりの九号警報で直撃だ。十四年前の八三年といえば、香港返還を決めた英中交渉の最中。この十四年間で香港は劇的な成長を遂げた。香港人ならずとも「この台風こそ天が意を告げるもの」と思っても無理はないだろう。

こうして台風までも「吉兆」にしてしまう香港の人々。同時に、「今のところ、楽観していても大丈夫」という気持ちを象徴している。

＊＊＊＊＊

のだ・けんじ　香港ポスト紙記者。一九八七年芸術専門学群卒。本紙OB。



▲１－２日の台風で壊れた返還祝賀の装飾

先月号訂正

本紙一三八号三面「専門科目開講されず」に事実誤認及び誤解を招く表現があるとの指摘がありました。関係者及び読者の皆様におわびして訂正いたします。

二段目三行「社会学類との共通開設」→穴埋めのために共通開設にしたのではなく、固定枠化されています

三段目三行「思想学から演習を四コマ」→「全体から演習を四コマ」

五段目十五行「今年度開設科目の中には一年生対象授業はない」→削除

六段目二十六行「十分な教育ができないのは」→「十分な教育ができないのであれば」

六段目三十三行「講座には教授、助教授、講師」→「講座には教授、助教授、助手」

図「学務担当　教官・広報」→削除、「大学執行部」→「人事委員会」、「人数配分」→「配置の承認」

＊＊＊＊＊

その他の訂正

一面「駐車場規制」二段目一行「移住」→「居住」

「市議会始まる」三段目十行「大山孝輔助教授」→「大山耕輔助教授」

二面「科学技術週間」「地質研究所」→「地質調査所」

「香港の街角から」執筆者「九〇年芸術学群卒」→「八七年芸術専門学群卒」

三面「フリーマーケット」見出し「文化発言」→「文化発信」

友 and 遊　甚八 居酒屋
PM6:00より営業　Tel 55-6744

引越し、レジャーにレンタカーを―
（株）トヨタレンタリース茨城
―筑波学園営業所―
営業時間8:00～19:00　☎51－0100

コンパはおまかせ!　酒・たばこ・米
みやもと
天久保２丁目（味の民芸裏）
TEL 52-1960

Salon de Adonis アドニス
〒305 つくば市天久保3-4-8 柴峰ビル１Ｆ
TEL 0298-58-3653
受付時間 9:00～19:00（パーマ18:00まで）増毛コース有
定休日 毎週火曜日 第2、第3月火連休

暮らしと密着した生協
食事ヲシタイ時ニハ 生協の食材で自炊し
洗濯ヲシタイ時ニハ 生協のせっけん洗剤で洗濯し
免許ヲ取リタイトイウ人アレバ 生協の紹介する教習所を教え
新シイ電話ヲ望ム時ニハ 生協で申し込む
ソンナ生協ニナリタイ
筑波学生教職員生活協同組合
〒305 つくば市天久保2-9-2リッチモンド２番街203
Tel：0298-55-9331　Fax：0298-52-0201
E-mail Address coop@mail.raidway.or.jp

CREATIVE HOUSE AKUAKU 1979-1999
COFFEE お食事 お酒 JAZZ, ART
つくば市天久保2 6 1
TEL0298-51-4147
［pm0:00～am2:00］
営業時間が変わりました。

春日歯科医院
〔診療時間〕AM9:00～PM1:00, PM2:30～PM7:00
（但し，火・土曜日はPM6:00まで）
〔休診日〕日・木曜日，祝祭日
つくば市東平塚（大学病院北側）TEL 51－1333

メガネのハシモト つくば店
開店セール実施中
〈コンタクト定検〉 土 PM4:00～6:00　月・木PM2:30～4:30

募集　広告、記者 定期購読
筑波学生新聞会　52－4460

―一流メーカー家電品を安く安く大奉仕中―
●カラーテレビ ●ビデオ ●ステレオ ●パソコン ●ワープロ ●ファクシミリ
●電子手帳 ●冷蔵庫 ●洗濯機 ●携帯電話 ●クリーナー ●電子レンジ
●電気炊飯ジャー ●エアコン ●ビデオソフト ●輸入・国内CD ●ゲームソフト ●Jリーグ グッズ
決算処分フェア開催中

お客様第一・良心経営
石丸電気 つくば店
茨城県つくば市東新井３１－１３
電話 0298－51－1400（代表）
営業時間＝午前10時～午後7時半 金曜・土曜は午後8時まで
茨城県最大のソフト売場
～国内CD・輸入CD・LD・ビデオソフト・ゲームソフト～